

南会津 のうりんニュース



今月の写真：ひめさゆり

6月になると各地で山開きが始まります。南会津の厳しい冬を越した植物たちも、待ちかねていたかのように1つ2つと顔を出してきました。忙しく毎日をご過ごしているうちに何気なく通り過ぎてしまいがちな植物も、よくよく見ればなんと貴重なモノか!!

6月の山はまさに宝の山なのかも知れません。

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・ぼくたち野菜のパパとママ♪
 - ・田島二小「田んぼの学校2008」開校!!
 - ・撮影スタッフ!! 南会津の「春色」を味わう
 - ・有機栽培ミニトマトの取り組み!!
 - ・叶津地区で水稲有機栽培の取り組み
 - ・「山桜がつながり上下流の交流」
 - ・雨にも寒さにも負けず健康ウォーク
- この人を知りたい
 - ・森林とともに「永遠の故郷づくり」を
- 農林事務所からのお知らせ
 - ・山地災害の危険信号を見逃さないで
 - ・第22回ファミリー緑の教室参加者募集
 - ・水田所得安定対策への加入申請は6月30日まで

平成20年6月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

ぼくたち野菜のパパとママ♪



新緑も鮮やかな5月16、23日。下郷町立江川小学校において全校児童64名が野菜の苗植え・種蒔きを行いました。これは、福島県食育推進計画に基づき、作業を支援してくださっている藤原八郎さん始め、直売所「よらっしえ」会長の小山常喜さん、江川小学校、下郷町、JA会津みなみ、南会津保健福祉事務所、南会津教育事務所、南会津農林事務所が共同で実施している取り組みです。

当日は好天に恵まれ、「ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、ニンジン、ネギ、落花生」を植えました。これらの野菜はこれから児童が一生懸命に世話をし、収穫体験や伝統料理実習が行われる予定です。

畑仕事をする機会が少ない児童は、初め恐る恐る植えている感じでしたが、慣れるにつれて「先生これ

見て〜♪」と元気いっぱい笑顔と共に、全身で土の匂いを感じているようでした。

作業終了後に校長先生から「今日からみんなは野菜たちのパパとママです。しっかりとお世話して下さいね。」とお話があると、みんな力強く「ハイッ!!」と応えていました。

野菜以上にスクスクと育っていく子供らを見ると、将来はきっと十色のキレイな花を咲かせてくれるだろうと期待が膨らみます。

(企画部、農業振興普及部)

田島二小「田んぼの学校2008」開校!!

去る5月1日(木)、長野林業研修センター近くの学習田において、南会津町立田島第二小学校5年生16名が出席し、「田んぼの学校」の開校式が行われました。

児童代表による決意表明のあと、ビオトープ池の補修作業とハナショウブの移植を行いました。花が咲くと「二小」の文字が浮かび上がるのをみんな楽しみにしています。

(農村整備部)



撮影スタッフ!!南会津の「春色」を味わう

県は、第20回全国生涯学習フェスティバル記念映画「春色のスープ」の撮影スタッフを激励するため、5月15日、撮影場所となった県立南会津病院で、南会津産の農産物を贈呈しました。



南会津農林事務所の齋藤康博所長から瀬木直貴監督へコシヒカリ30kgを、炊出しに協力している南会津町の婦人会へ3色(白・紫・緑)アスパラガス7kgを手渡しました。

早速、昼食で瀬木監督、出演者の佐津川愛美さん、栩原(とちはら)楽人さん、美保純さんらが新鮮なアスパラガスをほおぼり、「マジックペンのように太く柔らかくて美味しいアスパラは初めて!」と大好評でした。米は「しんごろう」にして振る舞われました。



スタッフの皆さん!地元名産の農産物を味わい、南会津ファンとして今後応援してくださいね。フェスティバルでの上映を楽しみにしています!(企画部)

有機栽培ミニトマトの取り組み!!

南会津管内の有機栽培ミニトマトは、ふくしま型有機栽培技術実証ほとして3年目になりました。昨年10月に有機栽培の認証を取得し、今年度から有機栽培ミニトマトとして出荷する予定です。下郷町の実証ほ農家の阿部純正さんも、今年の販売を大いに期待しています。

今年度は、JA育苗センターで3月25日に種蒔きし、苗植えは5月7日に行いました。当日は、暖かくて風もなく、絶好の定植日和でした。苗の活着も良好で、現在生育は順調に進んでいます。

今年度は昨年問題となった葉かび病、後半の草勢低下等の対策として、耐病性品種の導入、土づくりや灌水方法の改善により根張りの確保を行い、草勢維持による収穫量の向上、遅い作型では基肥を削減し適正な草勢管理を行い着果の安定化を図ります。

慣行栽培と比較すると有機栽培の収穫量は一般的に低いと言われますが、実証ほでは慣行栽培と同等の収穫量を目標に、会津農林事務所有機農産物推進担当と連携して、南会津地方における有機栽培技術の確立及び普及拡大を目指して取り組んでいきます。



(農業振興普及部)

叶津地区で水稻有機栽培の取り組み

去る、5月20日に只見町叶津地区の中野大徳さんのほ場10aと13aそれぞれで、水稻有機栽培実証展示ほの田植え作業(コシヒカリ)が行われました。4月14日に播種された60枚の苗が3~4本ずつ丁寧に植え付けられました。田植え作業後、抑草効果を目的として、ペレット状にした米糠200kg(10aほ場)と油粕200kg(13aほ場)が散布されました。散布後、入水を行い、米糠・油粕の有機層を形成させました。あいにくの天候ではありましたが、作業は順調に行われました。

今後は新たな除草方法の取り組みとして、油粕散布区に6月25日頃にマゴイ350匹を放流する予定です。水稻有機栽培の最大の課題は除草効果をいかに高めるかがポイントになります。今年度は米糠・油粕等の有機資材+マゴイによる除草方法を実証します。

中野さんの水稻有機栽培の取り組みは今年度で2年目となります。昨年度は、生産されたお米は都内を中心として販売され、好評を博しました。今年度は有機JAS認定申請を視野に入れた取り組みを行っていきます。

(農業振興普及部)



米糠散布作業

山桜がつなく上下流の交流

5月3日、下郷町戸赤地区において会津流域林業活性化センター主催による「上下流連携いきいきプロジェクト交流会」が開催され全体として68名、内新潟県からは40名が参加しました。阿賀野川水系下流域の新潟県より「NPO法人にいがた森林の仲間の会」を招いて行われる交流会は今年で6年目になり、これまで阿賀野川の上流と下流の住民が交流を深めてきました。

今回は戸赤地区に自生する山桜の観察会に続いて、(財)日本さくらの会事務局長代行の浅田信行先生を講師に迎え、「さくらセミナー」と称し全国の桜に関わる取組事例が紹介されました。その後、参加者による質疑応答が行われるとともに、今後の交流活動についても活発な意見交換が行われました。

今後も双方において交流会が計画されており、流域を通じた交流がさらに深まることが期待されます。

(森林林業部)



この人を知りたい

森林とともに「永遠の故郷づくり」を

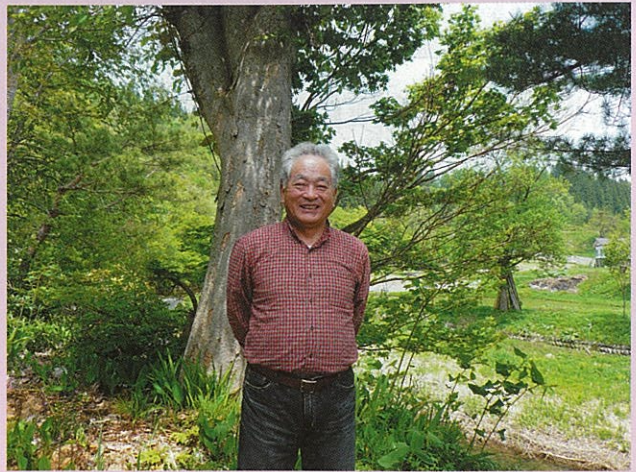
(只見町 刈屋 晃吉さん)

今回は、森林を活かした地域作りに取り組んでいる只見町布沢地区の刈屋晃吉さんについて紹介します。

刈屋さんは、生まれも育ちも只見町布沢地区で、高校卒業後、只見町役場に勤め、助役も務められました。幼い頃から周囲の森林と身近にふれあい、父親からは「必要以上に山を荒らしてはいけない」と、山と人との関わり方について様々なことを教えられ、自然を大切にすることが育まれていったそうです。4年前に役場を退職され、現在は布沢区長として地域づくりの先頭に立っています。

刈屋さんが設立に関わった明和小学校旧布沢分校を活用した「森林の分校布沢」は、都市住民との交流の場としてだけでなく、森林の素晴らしさを伝える拠点として整備され、年間1,000人近くの方が利用しています。刈屋さんは、早春の残雪残るブナの新緑の頃から鮮やかな紅葉の季節まで森林を案内する活動をするとともに、「若者が定住する永遠の故郷づくり」を目指し日夜忙しく活動されています。

昨年10月、布沢地区は米国サンフランシスコに



本部を置く自然保護財団シーコロジーから、優れた自然保護活動を行った団体に贈られるシーコロジー賞を日本の団体として初めて授与されました。これは刈屋さんをはじめとした布沢地区の長年にわたる自然保護の取組みが国際的にも高く評価されたものです。

来たる6月21、22日には只見町を会場に第2回世界ブナ・サミットが開催されます。刈屋さんもサミットに参加し、参加者に布沢のブナの森を案内することになっています。この催しが町外からの参加者だけの催しではなく、町民が自分たちの身近にある自然という地域財産を見直すきっかけに、そして地域の活性化に結びついてくれればと刈屋さんは期待しています。

(森林林業部)

雨にも寒さにも負けず健康ウォーク

第20回ふくしま緑の百景歩こう会は、年内に開通が予定されている国道289号の開通記念として、5月11日(日)下郷町南倉沢地区の特設会場を起点に、工事中の国道289号から豊臣秀吉も通ったと言われている旧松川街道、観音沼森林公園を経てスタート地点に戻る約13kmのコースで開催されました。

会場付近においては、緑化推進活動の一環として下郷町立旭田小学校の児童による緑の「募金活動」や



主催者による記念植樹、大川溪流太鼓保存会の迫力ある演奏が行われ、県内各地から参加した約2千人の参加者は、小雨降る肌寒い気候にもかかわらず元気に出発しました。

第3チェックポイントのある観音沼森林公園付近では、フルート奏者による森林コンサートや中山村づくり実行委員会の木工クラフト実演と山菜天ぷらの無料提供、南倉沢農産物加工部会のつゆ餅・湯茶のサービス等が参加者の冷えた身体を温めました。

午後には、参加者が続々とゴール地点に到着し、完走者に贈られる抽選の結果に見入ったり、南倉沢農産物加工部会のテントでは、多くの参加者が山菜や地元産品をお土産に購入していました。

今回の開催は天候に恵まれませんでしたでしたが、多くのボランティア、関係者の心温まる歓迎と協力は、参加した方々に下郷町の暖かく優しい気持ちを伝えることができたのではないのでしょうか。

(企画部、森林林業部)



山地災害の危険信号を見逃さないで

～日頃から住んでいる周辺の状況をよく認識しましょう～



平成14年10月台風21号による土砂災害発生(只見町福井地区)



治山事業による復旧状況

南会津農林事務所管内には、802箇所(平成20年4月現在)の山地災害危険地区があります。近年の異常気象等により、これまでの予測を超えた集中豪雨から土石流などが発生する恐れが高まります。災害から尊い人命・財産を守るため、日頃から近くを流れる沢や自宅裏山の状況を知り、災害の危険信号を見逃さないようにしましょう。

(森林林業部)

第22回ファミリー緑の教室参加者募集



初夏の緑の中で、森林を体感・体験してみませんか？多数の応募をお待ちしています。
(森林林業部)

- 日時**／平成20年6月28日(土)
10:00～14:30
- 場所**／高清水自然公園(南会津町界字長地沢口)
- 対象**／小中学生の親子等100名程度
- 内容**／森林観察、木工クラフト、
野外料理体験・試食(詳細は現在調整中)
- 応募先**／森林林業部 TEL 0241-62-5375
- 応募方法**／①参加者名 ②参加者生年月日
③代表者連絡先
を応募先にお知らせ下さい。

水田経営所得安定対策への加入申請は6月30日まで

平成19年産(米)から農業の担い手を育成・確保するために新たに導入された「水田経営所得安定対策(旧:品目横断的経営安定対策)」への加入申請は6月30日が締め切りです。同対策は米価の下落により収入減少となった差額を9割まで補てんするものですので、加入対象となる“認定農業者”の方はもう一度加入申請へのご検討をお願いします。

加入には以下の要件が必要です(以下のいずれかに該当)。

①認定農業者であり、農地基本台帳の「田」「畑」の

面積が4ha以上の経営規模であること
(地域によっては面積が緩和されます)。

②認定農業者であり、農業所得が250万円{基本構想の目標農業所得(南会津町の場合は500万円)の1/2)を超え、水稻栽培面積が耕作面積の27%以上であること。

③以上の要件を満たさないが、認定農業者であり、町への特認を申請するもの(今年度の申請は6月2日で終了しました)。

詳しいご相談は農林事務所、または最寄の役場、JAまでお問い合わせください。(農業振興普及部)



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 0241-62-5252(4月から変わりました) FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



ふくしま食と農の絆づくり運動

みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



この広報誌はSOY(大豆油)インキを使用しています。